JTB旅ホ連特集

中部 支部連合会

会長 **小田與之彦**（越前あわら温泉 つるや）

宿泊増売などへの努力を誓う小田会長

北陸の復興道半ば 事業再開まで支援

2025年の中部支部連合会は、本部の大テーマである宿泊増売と会員施設の安定経営の実現に向け、たゆまぬ努力を続ける一年とする所存だ。23年12月にスタートした国内宿泊管理ツールの導入の経緯を再度踏まえ、初期の目的であるJTBと旅ホ連の真の意味でのWIN―WIN体制の構築と確立に向け、待ったなしの一年となることを理解し、会員施設のご理解とご協力をあおぎながら根気強く取り組んでいく所存である。またそのためにはJTBの関連部署との密接なコミュニケーションも不可欠であり、積極的にコミットしていきたい。

また、24年元日に発生した能登半島地震からの復旧、復興への道筋は道半ばである。JTBならびに旅ホ連関係者各位からは、これまでも多くのご支援を賜ってきたが、事業再開まではまだ多くの時間を要すると見られている。厳しい状況にある被災会員に寄り添いながら、この災害を風化させることなく、再開までの支援を続けていこうと考えている。そのために、関係各位においては引き続きのご支援をお願いしたい。

中部は太平洋側から中央アルプスなど内陸部を経て日本海側に通じる、多様な自然、歴史、文化を誇るエリアである。その多様性をコンパクトな行程で周遊できるという優位性を生かし、4千万人以上の訪日が見込まれるインバウンド旅行客の誘客にも積極的に取り組んでいく予定だ。これは中部圏誘致協議会とも協力し、効果を最大化させていく。また9月に初めて東京、大阪以外の名古屋で開催されるツーリズムEXPOジャパンにもしっかりコミットし、インバウンド市場における中部の存在感が発揮できればと考えている。

旅ホ連はJTBの最大のビジネスパートナーであり、お客様、地域、JTB、そして旅ホ連会員の「四方良し」のサイクルが機能するように全力で取り組んでいくことをお誓いし、あいさつに代えさせていただく。共に良い一年を創りましょう。

九州 支部連合会

会長 **西田陽一**（ホテル白菊）

館の前に立つ西田会長

持続可能な産業構築、地域に貢献

観光と生活、旅と暮らしが紡いできた風土を大切にし、地域のインフラ充実と魅力ある地域づくりを実現するため、旅ホ連会員とJTBが協力し、行政や地域団体とも連携しながら、住民の理解を得て素敵な故郷を築くことが重要である。お客さまの消費が地域に還元される仕組みづくりに汗を流すことで活力ある地域が生まれ、人口減少の歯止めの一翼を担うことができる。

宿泊増売については、九州の特性を生かした戦略が求められる。昨年、九州における宿泊者数の構成比で50%が九州からの宿泊者となっている。九州の地域性だ。そして、九州のJTBリテール22店舗の40%（宿泊者数）は、九州域内送客だ。域内需要を増やすために魅力ある商品づくりが不可欠だ。地域の食材を目玉に旅ホ連会員とJTB仕入との共同で企画販売した商品があった。大分は、関サバ、関アジ、フグ、豊後牛を中心とする「海鮮づくし」だ。これが、人気商品となった。今後は九州7県の魅力を伝え、地域と共に栄える商品をJTB仕入担当者と共に企画造成したい。紙パンフレットとWEB、JTBの総合力を生かし、九州域内の活性化に取り組む方針だ。

リテール店舗についてはJTBの強みの一つとして位置づけられる。顔と顔のつながり、リアル接点を重視する店頭こそがJTBの財産であり、旅ホ連会員は店舗との信頼関係を築いてきた。今後も近くて温かい関係性を大切にし、店舗へ宿の最新情報や地域の魅力を定期的に提案する。認知度のアップデートのため、店舗スタッフと旅ホ連会員との交流会実施によるコミュニケーション機会の増加を支援する。

JTBブランドについては、お客さまからのフィードバックを積極的に収集し、会員施設のサービス改善を図る。アンケートの収集率向上はエース商品のブランド化につながる。さらに、お客さま、宿、店舗の三者が旅の思い出を共有し、喜びを分かち合える温かい場づくりを目指す。まだ構想段階だが、九州からトライしたい。これらの取り組みを通じて、JTBブランド価値の維持・向上に貢献し、地域と共に発展する観光ビジョンの実現を目指す。

JTBの総合力を生かして九州域内の活性化に取り組み、持続可能な観光産業の構築と地域社会への貢献を果たしていく所存である。

西日本 支部連合会

会長 **岸本一郎**（浜湖月）

着物姿でポーズをとる岸本会長

万博プラスワン観光で訪日拡散

2025年の西日本支部連合会最大のトピックはやはり「大阪・関西万博」の開催だ。開幕当初は現場のオペレーションの不備など一部でネガティブ情報も散見されたが、来場者数は順調に伸びてきていると聞き及んでいる。今後、SNS等の口コミが拡散し、国内外からさらなる来場が見込まれる。特にインバウンドについては、万博プラスワン観光として、JTBグループと西日本各支部の着地コンテンツの開発支援策を講じ、インバウンドの地方流入と拡散を持続させたい。

また25年は瀬戸内国際芸術祭も開かれ、戦後80周年という節目の年に、ヒロシマなどが世界の耳目を集める好機と捉えている。この好機を宿泊券増売などビジネスにつながるようJTBと例年以上に連携を密にしてやっていく所存だ。

さらに、高知県を舞台にしたNHK連続テレビ小説「あんぱん」が好評で、過去の事例を見てもドラマゆかりの地は多くのお客さまが訪れている。

加えて、秋からは、同じくNHK連続テレビ小説で、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）とセツ夫妻をモデルにした「ばけばけ」も始まる。松江市などが舞台となることから、山陰の旅行目的地としての価値が高まると期待している。

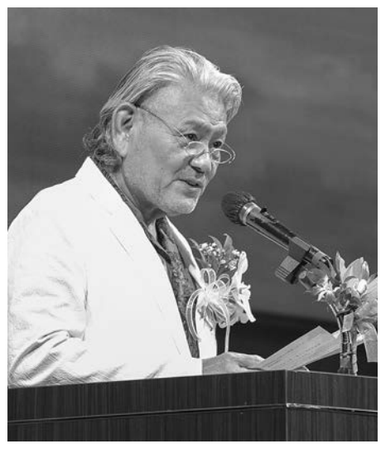
また、2026年の大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送も決まっている。豊臣秀吉と秀長を描く本作の舞台は大阪や奈良、滋賀、京都など西日本支部連合会管内の広範にわたる。

大河ドラマや朝ドラも放送の年だけの盛り上げにならないよう着地型観光の企画としてそれぞれの地域とJTBグループとの共創による新しい開発を行い、創客につなげたい。

順調にいけば26年に「飛鳥・藤原の宮都」、27年に「彦根城」も世界文化遺産に登録される見込みで、こうした外的な好要因を西日本支部連合会会員の宿泊増売につながるよう、しっかりとJTBと協働していきます。

沖縄 支部連合会

会長 **平良朝敬**（沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ）


平良会長　かりゆしグループ創業60周年式典にて

下期に「日本の旬」沖縄の未来へつなぐ

25年度下期は、JTBの国内旅行キャンペーンである「日本の旬　沖縄」が10月1日よりスタートする。「沖縄の魅力は無限大、住む人も訪れる人も共に輝ける島・沖縄」をキャッチコピーに展開される。前回、「日本の旬　沖縄」が開催されたのは、19年度下期。ちょうど新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、不完全燃焼のうちに終了。そこから6年を経てコロナ禍を乗り越え、時代も環境も変わったいま、新たな「沖縄」を未来につなぐキャンペーンとして期待したい。

25年度は、沖縄支部連合会としてもJTBとパートナーシップを深化させ、「日本の旬　沖縄」を軸に活発な活動を行っていく。上期は、昨年度より復活した店舗キャラバンや、受け入れ研修を充実させる。併せて、沖縄販売におけるけん引役、情報の一元化と深化を担ってもらう役割として「JTB　沖縄アンバサダー」が、全国の各エリアの店舗から38名任命された。4月には沖縄への研修旅行を実施し、視察および旅ホ連会員との交流会も実施した。店舗での販売促進施策の展開も昨年に引き続き決定したこともあり、ディスプレイコンテストや宿泊増売に向けた取り組み支援を加速させていく。

さらに委員会・各部会活動も充実を図りたい。「サステナブル部会」では、沖縄県と連携したSDGsに関するセミナーへの参加や県内会員施設のサステナブルな取り組みの視察および体験を今年度も継続して実施していく。「インバウンド部会」では、沖縄においてようやく海外航空路線が94・9%まで回復してきた。宿泊増売へのキーワードである「訪日インバウンド」需要を取り込むべくJAPAN iCANセミナーや、海外商談会への参加を計画している。

また平日に子どもが家族と一緒に校外学習する「ファーケーションの日」制度が試験的に下期より導入決定。県と連携し取り組み拡大を進めたい。

今年度は、沖縄支部連合会としても持続的な発展に向けて取り組むのはもちろん、攻めの1年としたい。